

第七三回特別展

絵図と被差別民 都市大阪のユスモロジ

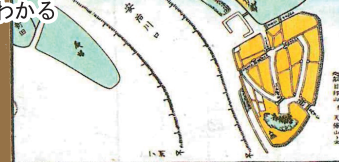
二〇一八年

五月一七日(木)～八月三〇日(木)

大阪人権博物館 特別展示室

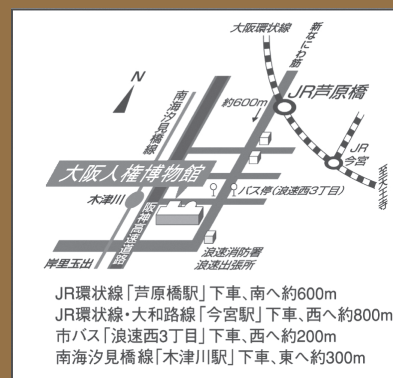


『新撰増補国宝大阪全図』文久3年(当館蔵)
大坂三郷の周縁部には被差別共同体の記載があり、身分制社会の実像がわかる



- 開館時間 水～金曜日 10:00～16:00 (入館は15:30まで)
土曜日 13:00～17:00 (入館は16:30まで)
※開催期間中の休館日はホームページまたは当館にお問い合わせください。
- 入館料 大人 500円(400円) 大学生・高校生 300円(200円)
小学生・中学生 200円(100円)、65歳以上 300円(200円)
※()内は、有料入館者が20名以上の団体料金
障害者(介助者を含む)は無料

主催 大阪人権博物館



絵図と被差別民 - 都市大坂のコスモロジー -

【学芸員による展示解説】

日時：6月23日(土)、8月4日(土) いずれも14時～

場所：特別展示室

江戸時代に描かれた絵図(古地図)には、国絵図、郡絵図、町絵図、村絵図などさまざまなものがあります。時の権力の要請に応じて作成されたもの、共同体の運用の必要から書き留められたもの、あるいは観光などを目的に刊行・市販されたものなど、多様な性格や特徴があります。

なかでも町絵図と称される都市を描いた絵図には手描きに彩色を施したもののほかに、版元が絵師、彫師、摺師の手を経て大量に刷りだし、市中で広く販売した版行(刊行)絵図もあります。

都市の景観を映し出す絵図には、古文書だけではわからない豊富な情報が盛り込まれており、そこに住む人びとの日常生活を彷彿とさせてくれます。絵図はまさに時代の証人であり、歴史を知るうえで欠かせない存在です。

一方、絵図には、江戸時代の身分制度を明確に反映した記載も多く含まれています。平民の居住空間とは一定の距離をおいた被差別民の共同体が描かれています。城下町大坂の場合もまた、「かわた」「長吏」「三昧聖」といった共同体について、「穢多」「非人」「隠坊」などといった差別的な名称が刻印されています。

身分制社会の実像に迫るには、絵図における被差別民記載のあり方を、歴史の事実と整合させたうえで、詳細に位置付ける必要があります。絵図そのものにむき合うことで新たな歴史的事実を明らかにすることこそが、部落問題の歴史研究のみならず、差別克服のための有効な手段となると思います。そのため、本展では、被差別民の記載についても歴史上の事実として、そのまま展示公開し、それぞれの絵図の解説文においてその意味を説明しています。

本展は、江戸時代の大坂を描いた絵図を通して、城下町大坂に生きた被差別民の姿に迫ろうとするものです。